

## 北海道雨竜沼湿原のミクリ属3種

著者	高橋 英樹, 佐々木 純一
著者別表示	Takahasi Hideki, sasaki Jun-ichi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	46
号	2
ページ	211-212
発行年	1998-12-30
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00055445">http://doi.org/10.24517/00055445</a>



## 新産地情報

○高橋英樹<sup>1</sup>・佐々木純一<sup>2</sup>: 北海道雨竜沼湿原のミクリ属 3 種 Hideki Takahashi<sup>1</sup> and Jun-ichi Sasaki<sup>2</sup>:  
Three *Sparganium* Species in Uryu-numa Mire, Hokkaido

雨竜沼湿原は北海道増毛山地の南暑寒岳東方に位置する、平坦な溶岩台地上に成立した山地湿原である。標高は約 850 m、東西 2 km、南北 1 km にわたる中位～高位泥炭地のほぼ中央を西から東へペンケペタン川がゆるやかに蛇行して流れ、100 以上の池塘が点在する。植生学的研究は比較的良好におこなわれており、水生植物群落がよく発達している（伊藤・梅沢 1973；橘・佐藤 1986）。

雨竜沼湿原のフロラは佐藤・鮫島（1985）の報告中に含まれており、現在のところこれが最も信頼おけるものである。そこではミクリ科として、既知文献からの引用（上記 2 文献と思われる）で未確認としながら、ホソバタミクリを挙げているのみであった。

これまでの調査で、我々は雨竜沼湿原にウキミクリ、ホソバウキミクリ、タマミクリのミクリ属植物 3 種を見出した。このうちウキミクリは日本では本州中部高山でのみ報告（伊藤 1991；角野 1994）されていたもので北海道初記録であり、ホソバウキミクリも日本では限られた山岳池沼にのみ分布するものであるので、ここに報告する。

ウキミクリ *Sparganium gramineum* Georgi はユーラシア北部に広く分布しているが、日本周辺ではサハリンとカムチャツカにあるのみ（Hultén and Fries 1986）で稀である。日本ではこれまで本州の高山にまれに産するとされ、確かな標本は新潟県糸魚川市蓮華山周辺のもののみであった（角野 1994）。今回、雨竜沼湿原南東部の池沼で確認した（H. Takahashi 25292, 25651; SAPT）が、今のところ雨竜沼湿原ではこの 1 ヶ所のみである（Fig. 1）。葉は長さ 100 cm まで、幅 1～2 mm の扁平で水面に浮く浮葉植物。花序の下部から 2 本の枝が伸びるため全体として花序は分枝する。枝ごとに雌性頭花が 1～3 個離れて付き着生、雄性頭花は最上の雌性頭花から離れて 1～4 個がやや近接して付く（Fig. 2）。果実は卵形で長さ 2 mm（嘴部分を除き）、幅 1.5 mm。

ホソバウキミクリ *S. angustifolium* Michaux は北半球の北方域に広く分布するが、日本付近では千島とカムチャツカから報告がある（Hultén and Fries 1986）。日本では本州中部以北の山岳地帯の池沼にまれに生育するとされ（角野 1994）、北海道からは夕張山系、大雪山系からの記録がある（伊藤他 1990）。これまで、雨竜沼湿原の 4 つの池沼で花をつけた株を確認している（Fig. 1）（H. Takahashi 25322, 25635; SAPT）。葉は長さ 40 cm まで、幅 1～2.5 mm の扁平で水面に浮く浮葉植物で花序は分枝しない。頭花の付き方には変

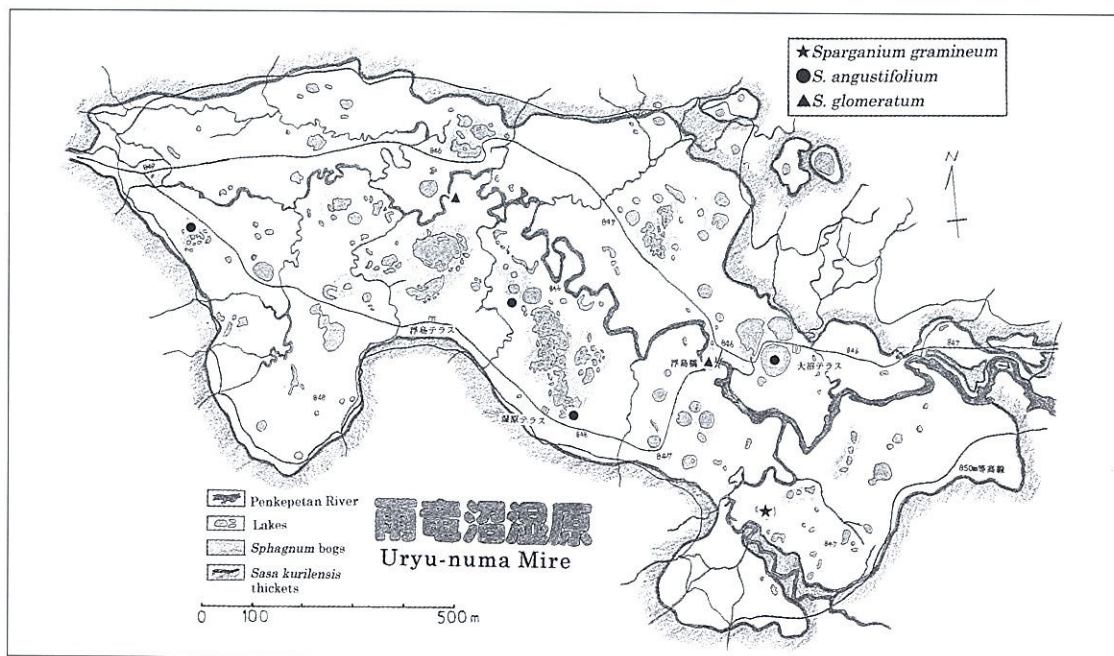


Fig. 1. Map of Uryu-numa mire showing the localities of three *Sparganium* species. Locality data on the submerged plants without any flowers which could not be definitely identified is not employed.



異があり、H. Takahashi 25322では雌性頭花は2個でどちらも着生、H. Takahashi 25635では最下部の雌性頭花は有柄腋生でより上部の1~2個の雌性頭花が着生である。雄性頭花は最上雌性頭花から離れて2~4個付く。やや若い果実は紡錘形で長さ2.0~2.5 mm (嘴部分を除き)、幅1.5~2.0 mm。なお雨竜沼のホソバウキミクリについては既にカラー写真で紹介されている(豊国 1988)。

以上2種はいずれも流れのない池沼に生育する。さらに、やや深い池沼において沈水状態で生え、長く伸びた葉が水面に達して浮葉状態になるものの花をつけるに至らないミクリ属植物(H. Takahashi 25284, 25289; SAPT)がある。これも上記2種のいずれかである可能性が高いが、現在のところ形態だけでは種が特定できない。この沈水ミクリ属植物は湿原内の30以上の池塘に生育している。

一方、湿原をつらぬくペンケペタン川の流水中の所々にタマミクリ *S. glomeratum* (Beurl ex Laest.) Neuman が生育している (Fig. 1) (H. Takahashi 25633, 25871; SAPT)。一部浮葉になるので変種のホソバタマミクリである疑いも持ったが、開花個体では茎の上部は抽水状態になり葉の幅は5~7 mmと基準変種の変異(角野 1994)内にあるので、タマミクリと同定した。川にはやはり沈水状態で花をつけないミクリ属植物が点々と生育しているが、これもすべてタマミクリかどうかは今後の検討が必要である。

なお、これまでの植生報告では雨竜沼湿原の池沼中の浮葉性ミクリ属植物はホソバタマミクリとされていた(伊藤・梅沢 1973; 橘・佐藤 1986)が、いまだ花を付けた確実な個体は確認していない。

以上により雨竜沼湿原には、ミクリ属植物が少なくとも3種生育していることになり、うち2種は浮葉性の山岳生ミクリ属である。なおこれら3種ともすべてレッドリスト掲載種であり(環境庁 1997)、雨竜沼湿原が水生植物の保全上貴重な地域であることを示している。

湿原への立ち入り許可に関し関係諸機関の協力を頂いた。記して感謝申し上げる。本調査は前田一步園財団研究助成湿原調査の一部としておこなわれた。



Fig. 2. *Sparganium gramineum* from Uryu-numa mire, Hokkaido (H. Takahashi 25651, Aug. 12, 1998; SAPT)

#### 引用文献

- Hultén, E. and Fries, M. 1986. Atlas of North European Vascular Plants, vol. I-III. Koeltz Scientific Books, Königstein.
- 伊藤至. 1991. 新潟県の水草 (I) ミクリ科. 長岡市立科学博物館研究報告 (26): 25-34.
- 伊藤浩司・梅沢彰. 1973. 雨竜沼湿原の植物社会. 日本生態学会誌 **23**(1): 1-21.
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹. 1990. 北海道高等植物目録 II 単子葉植物. 288 pp. たくぎん総合研究所, 札幌.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 178 pp. 文一総合出版, 東京.
- 環境庁. 1997. 植物版レッドリスト. 80 pp. 環境庁自然保護局野生生物課, 東京.
- 佐藤謙・鮫島淳一郎. 1985. 高等植物相. 北海道自然保護協会編. 暑寒別・天売・焼尻国定公園指定促進調査(自然環境)報告書, pp.155-205. 北海道, 札幌.
- 橘ヒサ子・佐藤秀之. 1986. 暑寒別雨竜沼湿原の植生. 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告 (21): 19-46.
- 豊国秀夫(編). 1988. ホソバウキミクリ. 日本の高山植物, p.637. 山と溪谷社, 東京.
- (〒060-0003 札幌市中央区北3条西8丁目北海道大学農学部附属植物園 Botanic Garden, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, N-3 W-8, Chuo-ku, Sapporo, 060-0003, Japan; 〒078-2607 雨竜郡雨竜町7区 7-ku, Uryu-cho, Uryu-gun, 078-2607, Japan)